

お釈迦まつりが 今年も盛大に 開催されました

仏教を開いたお釈迦様が誕生した4月8日を祝うお釈迦まつり。灌仏会、仏生会、降誕祭、花祭りとも呼ばれ、お釈迦様の誕生直後の姿といわれる誕生仏の像に甘茶をかけて洗い清めます。この風習は、もともと、香水（仏様に供える水）をかけていたものが、江戸時代の頃からは甘茶をかけるように代わったものです。

志布志では、観音菩薩を祭ることから「おかのんさあ」と呼ばれ、奈良時代の創建と伝えられる宝満寺を中心にお釈迦まつりが開催されています。お釈迦まつりは、「しがつようか（4月8日）」がなまった「しがつじよか」とも言われ、古くは江戸時代からまちを挙げて盛大にお祝いされていました。

まつり最大の見せ場は、花嫁を馬の背に乗せ花婿が手綱を引くシャンシャン馬の行列です。現在も華やかに行われているこの風習は昔からのもので、当時から若夫婦が安産祈願に訪れていました。



お釈迦まつり

①宝満橋を渡るシャンシャン馬②幸せそうな笑顔の5組のカップル③仏前結婚式で夫婦の契りを交わしました。④沿道の人々を笑顔にしてくれたハンヤ節踊り連⑤パレードの先頭で会場を盛り上げた千軒太鼓⑥楽しそうに踊る姿に見るほうも心躍るよさこい踊り連⑦幸せを願って甘茶かけ⑧愛らしい稚児行列

お釈迦まつりは、今年も4月28日と29日に盛大に開催されました。前夜祭、本祭ともに好天に恵まれ、宝満寺公園を中心としたまつり会場は、延べ10万人の来場者で賑わいました。

28日は宝満寺公園で前夜祭が行われ、竹灯籠の光が揺らめく会場では、ステージでのカラオケ大会などが行われました。

汗ばむほどの陽気となった29日の本祭も多くの来場者で賑わいました。威勢の良い千軒太鼓を先頭に、稚児行列やハンヤ節踊り連、ヨサコイ踊り連など約1000人からなるパレードが通ると、沿道を埋め尽くす来場者は笑顔で拍手を贈りました。

「シャンシャン馬」では、花嫁を乗せた馬の手綱を花婿が引き、沿道からの祝福を受けながら、ゆっくりと宝満寺まで歩きました。また、シャンシャン馬に参加した5組のカップルのうち1組が、圓光寺で仏前結婚式を挙げました。

宝満寺、商店街の各ステージではお笑いライブやキッズダンス、太鼓フェスタなどが行われました。1.5キロメートルにわたり様々なお店が並んだ志布志千軒まち大市も来場者を楽しませました。